

重点事業	1.いきもの自然学校	2.地域資源健幸ラリー	3.環境イノベーション
事業概要 (計画抜粋)	<p>自然と人のふれあいや自然観察等、総合的な環境が学べるモデル地域を設定し、「いきもの自然学校」において、環境の保護や保全について推進する、多様な主体で推進に関わる人材の育成を図る。また、自然を題材として、心と体の健康を育むとともに、生きがいを感じられる取組を推進する。</p>	<p>地域資源（自然、歴史文化、食、産業等）を巡り歩きながら、自然と人との関わりについて学び体感し、環境保全の意識の向上および地域資源の維持管理や継承の行動につなげるとともに、誰もが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる「健幸都市くさつ」を推進する。</p>	<p>市内の中小事業者等が他者との連携と協力の下で、業務・家庭、その他領域における環境配慮型製品やサービス等の開発・確立・導入を目指し、事業関係者の環境意識の向上および環境課題の解決を図るもの。 環境配慮型製品やサービス等を導入しようとする中小企業者等がその研究や開発に当たって不足する知恵・技術の習得や、実証実験場所を確保するため、それらを有する事業者等を募集し、連携・協力を行いながら、環境イノベーションの創造を図り、その内容について周知を行う。 (県や市の産業振興部局と連携し、環境側面から産業振興の後押しを行う。)</p>
最終目標 (最終年度)	<p>○2つのモデル地域を設定(例 湖岸地域、山手地域) ○地域資源や既存の取組を活用し、<u>地域の生物多様性について、体系的に理解できる環境学習プログラムを展開し</u>、環境に資する取組の実践者やその取組を支援する人材を育てる。 ※生物多様性は専門性を有し、市民が簡単に取り組めるものではないため、体系的に理解できるプログラムを設定し、そこで市民が学び、他方に広げていく必要がある。 ○モデル地域において経験を積まれた方に講師となっていただく。 ※専門性を学んだ人のみならず、地域の高齢者や農業生産者等にも参画いただく。</p>	<p>○14箇所のモデルコースの設定(各地区に1つを想定) ○各地域で自然健幸ウォーキングやサイクリングツアーが実施される。 ○地域資源の維持管理と活用が適切に実施されている。 ※自然環境保全地区をはじめとした地域資源の維持管理は、地域やボランティアの方が中心となった取組が多く、昨今、メンバーの固定化により高齢化が顕著となっており、代替わりが進んでいない事例が多い。地域資源の活用を通じ、地域資源の維持管理が持続可能な仕組みとして成り立つ。</p>	<p>○事業者のマッチング制度の設計・運用 ○マッチング制度による環境配慮型商品やサービスの創出 ○創出された環境配慮型商品やサービスが市内・全国で導入される</p>
計画スケジュール		 <p>※2年毎におおよそ2箇所、計14箇所のモデルコースを設定・展開を行う。</p>	
R3年度実績	<p>市内の小中学校区の中から2学区(志津学区、笠縫東学区)をモデル地域として設定</p>	<p>市内の小中学校区の中から4学区(玉川学区、山田学区、笠縫東学区、常盤学区)をモデルコースとして設定</p>	<p>環境セミナーにて講師による情報提供を実施、アンケートによるニーズ調査を実施</p>
R3年度成果	<p>○「いきもの自然学校」がめざす環境学習の理念や「生物多様性を体系的に理解する学習活動の流れ」、「プロジェクト企画・運営上のポイント」をまとめた。 ○プログラムを開発する前段階として、各プログラムのマッチング資料を作成。 ※マッチング資料：プログラムの活動概要に、「いきもの自然学校」が目指す生物多様性の学びを位置づけたもの ○「いきもの自然学校」全体に関わるアドバイザーと各プログラムの活動内容に合う講師を選定し依頼した。</p>	<p>○山田学区はコース設定に携わり、学区の地域資源について説明を行った。 ○玉川学区、常盤学区はウォーキングイベントに参加した。 ○笠縫東学区には地域資源の掘り起こしを行ってもらった。</p>	<p>○草津市環境セミナーにて、講師を招き、草津イノベーションコーディネータの役割と国の事業者向け施策について、情報提供を行った。 ○R3 産業振興計画アンケートにて、カーボンニュートラルへの取組実績およびニーズ調査を行った。</p>
今後の課題および改善策	<p>○マッチング資料を基に、各プログラムの環境学習プログラム素案を作成する。 ○環境学習プログラム素案を実践し、評価と再構成を行う。 ○地域人材育成の一つとして、いきもの自然コーディネーター候補を外部講習会に参加させる。 ○市が目指す「生物多様性の学び」を、各プログラムの活動内容に応じた具体的な学びとして示す必要がある。</p>	<p>○各学区と地域資源についての協議を重ね、モデルコースを設定する。 ○学区間でモデルコースを共有し、地域住民の交流の機会を増やす。 ○地域資源に関心を持つ人材が増え、維持管理や活用の機会を増やすきっかけづくりの取組とする。 ○学区間で関心の高さが異なるため、全学区実施に向けた提案方法の検討が必要。</p>	<p>○先進地視察を行い、制度設計の参考にする。 ○アンケートの結果を踏まえ、制度設計を行う。</p>